

Japan Society of
The Graded Direct Method
and Basic English

Year Book

No.77

内 容

コトバをつかむ教授法-GDM(その1)- 生成 AI、学習者、そしてテキスト -

磯野秀仁 2

聖書言語の意味解釈

～ BBE (*The Bible in Basic English*)版を範として(2)～

後藤 寛 11

英語の基本動詞

相沢佳子 24

「渡辺節さん・東山永さんへのインタビュー 1990 年」

— 片桐ヨウコさんの資料から —

松川和子 31

支部活動報告(東日本支部&西日本支部)

37

発行:GDM 英語教授法研究会/日本ベーシック・イングリッシュ協会

編集:山崎典子

東日本支部事務局 E-mail:info-e@gdm-japan.net

西日本支部事務局 E-mail:info-w@gdm-japan.net

<http://www.gdm-japan.net/>

コトバをつかむ教授法-GDM(その 1)

ー 生成 AI、学習者、そしてテキスト ー

磯野秀仁(玉穂中学校講師)

1. はじめに

情報を検索し、発信するインターネットが日本に入ったのは 1984 年と言われる。2002 年には普及率が 50%を超え、2024 年には 79%になり日常生活に不可欠なものとなっている。2022 年 11 月には公開 6 日で 100 万を超えるユーザーの願い事に答えてくれる対話型生成 AI、ChatGPT が生まれた。質問すれば困っていることを解決してくれ、背景や条件をつければ人間が書いたような自然な文章、リアルな画像や動画、音声を生み出すまでになっている。スウェーデンでは 2010 年にデジタル社会にいち早く対応した取り組みとして 1 人 1 台タブレットや PC を付与する計画を進め、紙の教科書を原則として廃止した。しかし、「国際読解力調査 (PIRLS)」で生徒の読解力が低下したため 2023 年新学期、スウェーデン全土の学校で、印刷された本や静かに本を読む時間、手書きの練習に重点が置かれることとなった。カロリンスカ研究所も、「デジタル情報源から知識を得るのではなく、印刷された教科書と教師の専門知識を通じて知識を得ることに重点を戻すべきだと考えている」との声明を出した。

日本では学校教育法が改正され、2019 年度からデジタル教科書が使用できるようになり、2021 年末までに小中学校で 1 人 1 台の学習用端末の整備が完了した。さらに、文部科学省では、2024 年度から小学校 5 年生から中学 3 年生の「英語」の教科書をデジタル教科書に先行導入する方針を決定した。その後は、現場ニーズが高い「算数・数学」でデジタル教科書の導入が検討されている。新しいテクノロジーが学習を向上させているという証拠はないし、テクノロジーによって何が効果的なのかははっきりわかっていない中での動きである。教育現場では生徒が課題を対話型生成 AI に頼り、考えなくなるのではないかと危惧されるほど新しいテクノロジーは存在感が増している。AI が存在感を増し、社会全体を覆うとしている現在、ヒトのコトバの獲得の仕方と向き合い方に目を向ける必要性がより一層高まってきている。

©この写真も big, hand, monument, sand etc. を Keywords に検索すれば where, who, when etc.

わざわざ現地に行かなくても様々な情報を得ることができる。



Sider Fusion

The large hand monument you are referring to is commonly known as "The Hand of the Desert" or "Mano del Desierto." This striking sculpture is located in the Atacama Desert in Chile. It was created by Chilean artist Mario Irarrázabal and stands about 36 feet (11 meters) tall, featuring a giant hand rising from the ground. The hand symbolizes human vulnerability and serves as a reflection on the presence of humans in the vast, arid landscape. It has become a popular tourist attraction and is notable for its dramatic appearance against the backdrop of the desert scenery.

2. 生成 AI と人間のコトバへの向かい方

日本人にとってファーストフードでありスローフードでありソウルフードで、外国人にも人気のある“Onigiri (おにぎり・おむすび)”の具の代表格である Umeboshi” (うめぼし)”を一度も食べたことのない生成 AI はどう理解し、英語で説明するのだろうか。

Sider: ChatGPT サイドバー + GPT-4o, Claude 3.5, G...

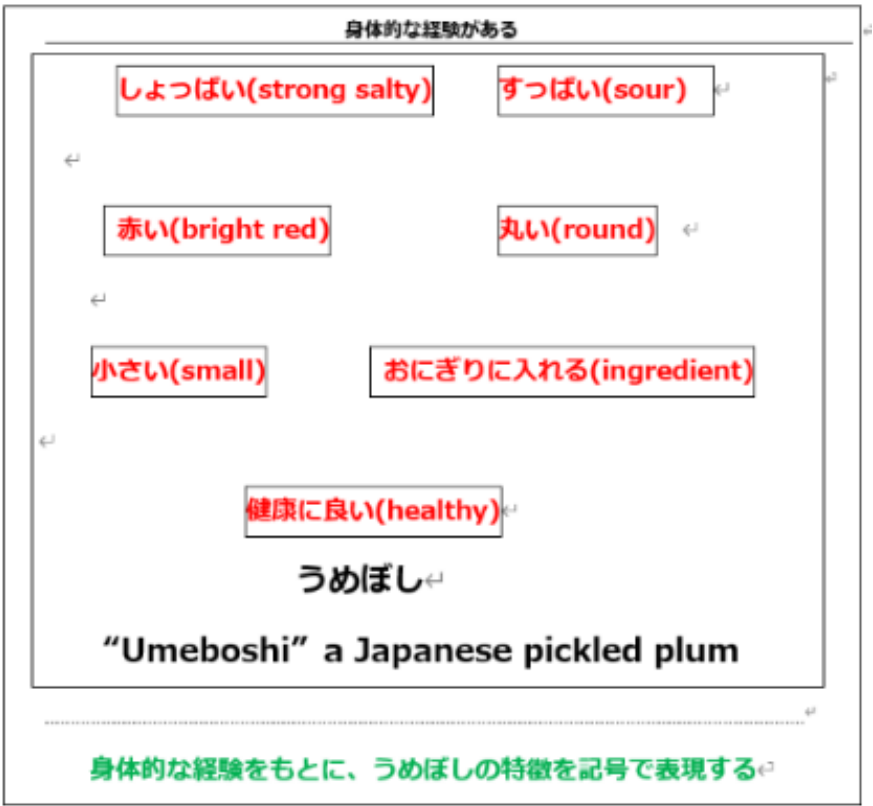


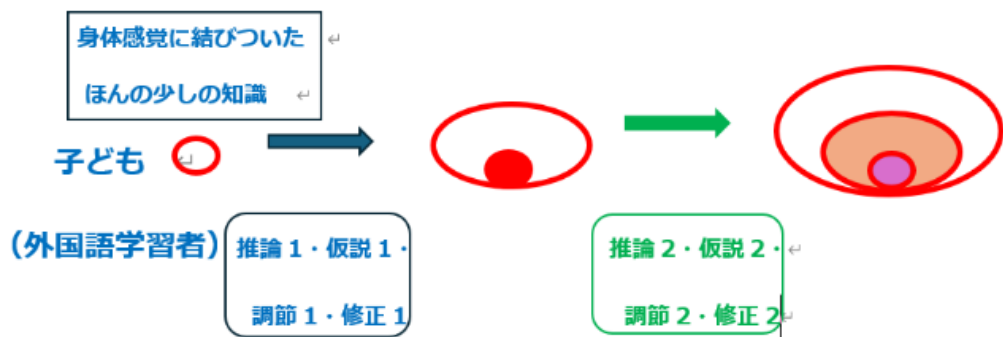
Sider Fusion

Umeboshi is a Japanese pickled plum. It is made from ume fruit, which is similar to a plum but is actually more like an apricot. The fruit is pickled in salt and often has a bright red color. Umeboshi has a strong, salty, and sour taste. People in Japan eat it with rice, use it in rice balls, or enjoy it as a flavorful addition to meals. It's also believed to have health benefits.

一度でも食べたことのある私たち日本人は fig.1 のようにその色や形,大きさ,味等の特徴を思い出し,口の中にツバ(唾液)が出てくる。しかし,コンピュータは身体を持たないので,そのようなことは生成 AI には起こらない。

fig.1





さらにヒトはそれぞれ作ってくれた人,いつ,どこで,誰と食べたというような,個人的な見てきた景色,「気持ち」,「感覚」,「体験」まで加わってくる。日本人なら「伝わる」ものがあるから「ソウルフード」の具として「共感」の第一に挙げられるのである。生成 AI は fig2 のようにヒトと違ってコトバと感覚が繋がってなくても強みである「膨大なデータからコトバを取り出し,予測し,置き換えながら繋げていく。その結果もっともらしく,思わず納得するような説明となっている。今井むつみは(2024)『学力喪失』の中で生成 AI の ChatGPT を「超優秀な次の言葉予測マシン」と言った。

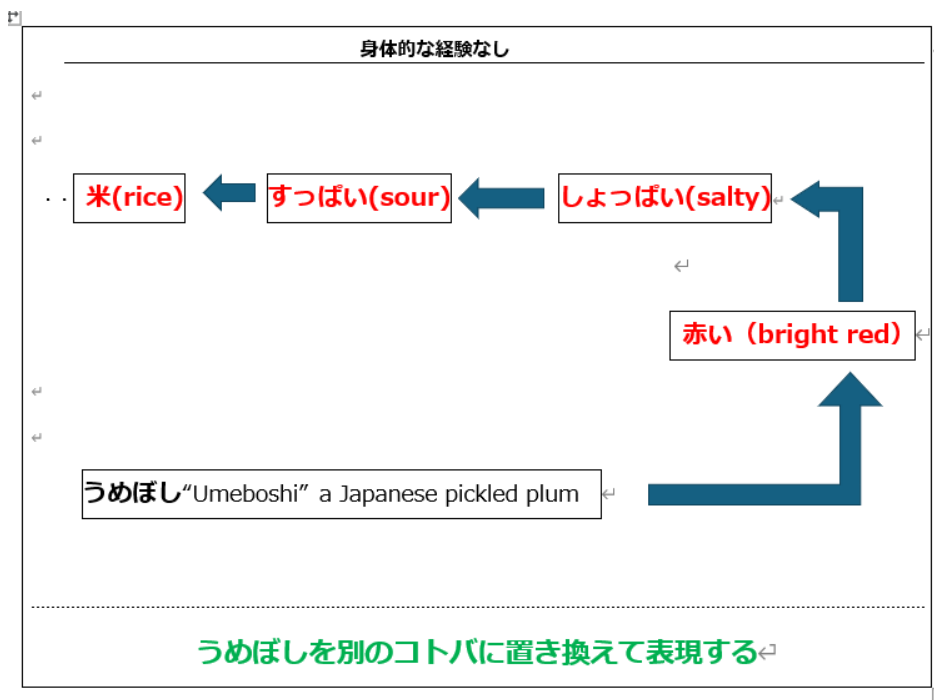
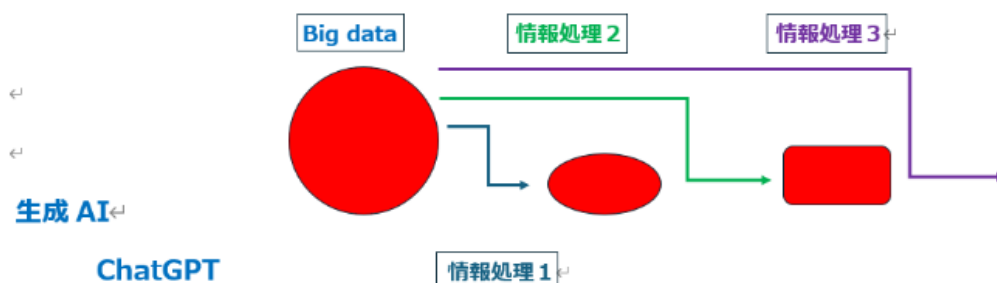


fig2



ではスタート時点でビッグデータを持っていない人間の脳は物事の情報をもどのように処理し、記憶しているのかという疑問が出てくる。利根川グループは 2012 年に「記憶は脳の中に保管されている」言い換えれば記憶は神経細胞の中にビデオテープのように保管され読み出されているのではなく「特定の脳のネットワーク内に存在する」ということを実験で明らかにした。澤田誠は『思い出せない脳』でわかりやすく次のような図に示している。

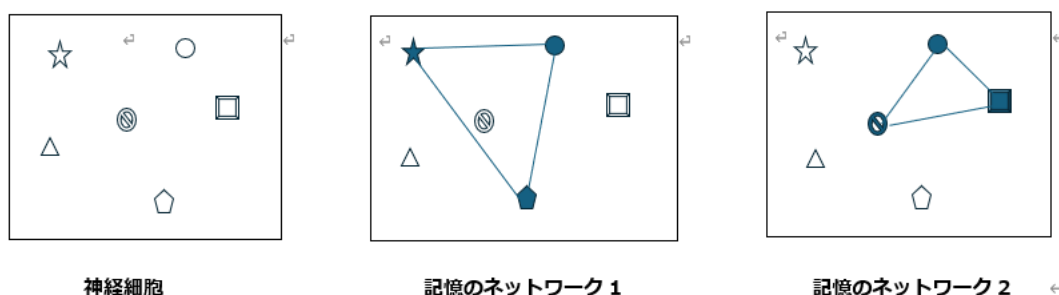


fig2 の”Umeboshi”は”回路網””strong salty” ”sour” etc.に電気が通ると”Umeboshi”の記憶がよみがえるのである。それを脳の中に創られた世界”mindset”と呼び、ヒトそれぞれにカスタマイズされ唯一無二の景色を持つものなのである。I. A. Richards はこのことを *Design for Escape* の9つの計画(design)の中の3つ目で「学習者の頭の中で起こる言語の構造化と世界の構造化は一緒に成長していく。」と言った。

Design for Escape の9つの計画(design)の中の3つ目

3) This **education** must use language: language effectively **geared** into actuality and action. The structure of the new language and the structure of actuality and action in learner grow together. Grow together: mesh into one another and become one source of power. Teaching is new a language can and should be the building of a new world.

脳がどのように学習し、コミュニケーションを取るかについて研究しているカナダの認知科学者 Stevan Harnad(1990 arXiv:c.s/9906002[cs.AI])は『AI は、コトバと感覚が繋がっていない言語を話す。「中国語を学ぼうとしたとき、情報源を中国語で定義された中国語辞書だけで置き換えて学ぶ」(The problem is analogous to trying to learn Chinese from a Chinese/Chinese dictionary alone.) ようなものだ。本当に理解するためには、対象について

身体的な経験を持たなければならない。対象について知っているとは、視覚イメージ、食べ物なら色や、模様、匂い、味覚、触覚も、素敵だ、嫌だという感情も対象の振る舞い方や行動パターンも知っている。身体に根ざした（接地した）経験があつてはじめて知っていると言える。』と言った。ヘレン・ケラーは、自伝の中でサリバン先生と出会い、コトバをモノと指文字を使って習う。指が別々の動きをしていることは気づいていたが、モノやコトの名前だとは気づかない。ある日、サリバン先生がヘレン・ケラーの片手を取り、冷たい水が手に流れ落ちる時にもう片方の手に最初はゆっくり、それから素早く w-a-t-e-r と綴りを書く。手の上に流れ落ちる、すてきな冷たいものが w-a-t-e-r とわかったとき全てのモノに名前があるという感激に打ち震え、頭の中が徐々にはっきりしていく新鮮な感覚を手に入れる。コトバが記号接地し「生きているコトバ」を獲得した瞬間である。私たちの知性は感覚に接地することによって上手く育つ。この心はずむ体験がその後のヘレン・ケラーの主体的な行動を育みコトバを磨いていく原動力となる。

記号接地していない AI は一度も地面に設置することなく記号（コトバ）から記号（コトバ）へ回り続けるメリーゴーランド(How can you ever get off the symbol/symbol merry-go-round?)のようなものだと言った Stevan Harnad は、

「少なくとも最初のコトバの一群は身体に接触していなければならない。身体につながっているコトバがあるボリューム持っていれば、それらのコトバを対比させることで、直接の身体経験がなくても、身体に接地したものとして新たなコトバを覚えていくことができる。」とも言った。

I. A. Richards はこのコトバを理解するには実世界の意味に結びついている、身体性が不可欠であることをブルーナの認知の3段階をもとに5つ目の提言として世界的な識字能力と国際的な学習の基本的な手段を 850 語の Basic English と Graded Direct Method に託した。

認知の3段階を経たり、行き来することによってコトバはコトバ以上の、絵は絵以上の、モノやコトはモノやコト以上のことを語りはじめ、理解は立体的に、リアリティーを持つようになる。

Design for Escape の9つの計画(design)の中の 5 つ目

5) Our two chief senses, eye and ear, must be used **together** if the teaching needed is to be developed.

Toward a Theory of Instruction Jerome Bruner

The importance in cognitive development of three modes exploring situations

1. by performances (enactions)
2. by depictions (imagery, the iconic)
3. by verbal statements (the symbolic)

In the second language teaching one of the most important things a teacher should know is how to demonstrate the meanings of sentences in ways which are at once

unambiguous, memorable, and easily imitated.

特に動きを表すコトバ,動詞はモノそのものを名づける名詞より状況のどの部分を指すかという点で格段に抽象度が高くなり,捉えにくくなる。抽象度が高くなると記号接地が難しくなる。画像をただだけでは記号接地できない。自分で動作や行為を行うことがポイントとなる。そして,その動詞が使われる様々な状況を経験することが重要となる。

Design for Escape の9つの計画(design)の中の4つ目

4) The presently available means for such a world-wide development is some form of **English**.

そして,リチャーズは学ぶ時に最も大切にしなければならないことは「学ぶことの最大の誘因となるものは学ぶヒトが成長していることに気づくこと」であると言った。

Design for Escape の9つの計画(design)の中の8つ目

8) The sovereign incentive for all learning is the learner's awareness of his own growing power.

このことについてヘレン・ケラーは「生きていることは」water を知った後に自伝の中で次のように述べている。

「井戸を離れた私は,学びたくてたまらなかった。全てのモノには名前があった。そして,名前をひとつ知るたびに,新たな考えが浮かんでくる。家へ戻る途中,手で触れたものすべてが,いのちをもって震えているように思えた。今までとは違う,新鮮な目でものを見るようになったからだ。家の中へ入るとすぐに思い出したのは,壊した人形のことだった。手探りで暖炉の所までたどり着き,破片を拾い上げる。元に戻そうとしたが,もう元には戻らない。目は涙でいっぱいになった。なんとひどいことをしたのかがわかったのだ。この時,私は産まれてはじめて後悔と悲しみを覚えたのだった。」『奇跡の人 ヘレン・ケラー自伝 p35 新潮文庫』より

3. 英語学習者の置かれている今

中学校卒業時まで覚える英単語の数は2020年度までは約1200語であったが2021以降小学校で扱われる英単語は600~700語で実質的には1600~1800語と実質的には2倍となっている。扱う単語が多すぎるとの指摘に対し「読んだり聞いたりして触れる必要はあるが,全ての単語を書いたり話したりまでできるようにすることを求めているわけではない。」「指導要領改訂後も中高校生の英語力は改善している。」と文部科学省担当は言った。1ページで扱われる単語はG.A.MillerのMagical number 7 ± 2 を遙かに超え,situationに基づくのではなくsettingに基づいてroot senseや記号接地を無視した急でバラバラな扱い方がされている。教える側にも負担感が多く,「盛りだくさんで精選が必要!(64%)授業がしにくくなった!(35%) (和歌山県国民教育研究所 2022.6~9月 中学校教員107人)」というのが現場の声で

ある。情報量が多くなるとヒトは考える時間がなくなり、考えなくなる。この結果、生徒の学習状況は

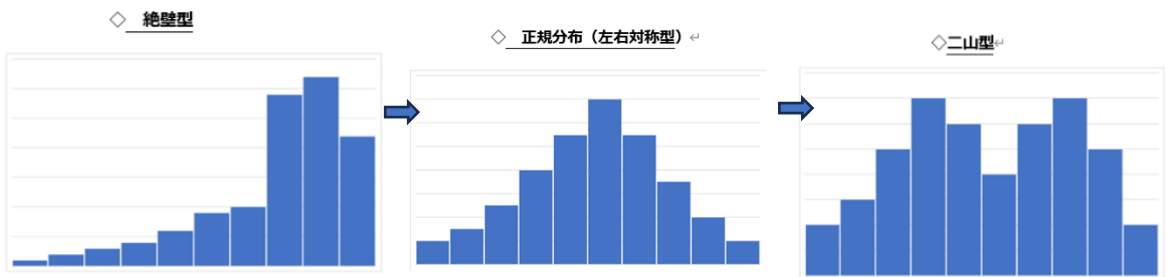
全国学力・学習状況調査（英語 4 技能平均正答率） 2024. 3. 19 中学英語「難しい」広がる学力格差 朝日新聞より

	聞く	読む	書く	話す	英語の勉強よくわかる	英語の勉強好き
2019	68.3%	56.2%	46.4%	30.8%	64.4%	52.3%
2023	58.9%	51.7%	24.1%	12.4%	62.4%	48.3%

「英語の学習が好きでない」と答えた小学校 6 年生の割合（文科省調査）

2013 年度 23.7% 2021 年度（教科化後） 31.5% 8%↑

となり、できる生徒とできない生徒の 2 極化に進んでしまった。



STEP THIRTY-ONE

A language is a living thing. It is like a tree. If it is given a good start it will put out roots and branches and will go on getting strong and tall.

Let us have a look at the five hundred word English which was planted in the first three books of LEARNING THE ENGLISH LANGUAGE. Book One put in the seed (grain) with its short sentences and clear words.

In Book Two these took root and the roots went deep. A straight young stem came up and a number of branches were put out. Through Book Three the plant became stronger and stronger as the language was put to more and more use.

By the end of the three books it is possible to see all the important ways of saying things in English, together with every question form which is needed for getting at more knowledge. The plant is strong and healthy and ready for new growth.

What are some of the ways of making this growth certain?

The first thing is to keep the language in use, through reading and writing and, even more important, through talk with others. In writing we say things with a pen; in talking we say things with the voice. Talk with people who have a good knowledge of a language has great value because it gives us the sound of the words and the way in which they are said, and we are able to see at the same time the face of the person talking. From looking at him while hearing him we get ideas about the sort of thing he is saying.

From LEL (98)

学習者が「学習者の頭の中で起こる言語の構造化世界の構造化は一緒に成長していく。」

感覚と「学ぶことの最大の誘因となるものは学ぶヒトが成長していることに気づくこと」の自覚をもてないのである。今井むつみが『英語独習法 p262』で言うように「子どもがことばの意味を「覚える」というのは、じつは、ことばが使われた状況にあるほんのちょっとした情報から、ことばの意味を推論によって復元する過程」が必要なのである。外国語をはじめて学ぶ学習者に焦点を当てるならば新しい要素を少なくして対比し、スモールステップで学習者が自立的にコトバの意味をつかみ取っていくことを可能にする教授法が求められる。その一つが Graded Direct Method である。教えられたコトバの知識とシステムを覚えることが続くとコトバの知識とシステムを自分の力で造り上げていく力が弱

まる。効率的にコトバの意味やシステムが教えられ、覚え、場面で使用できればわかったとするのではなく、学習者が記号接地を通して推論と調整を繰り返しながらコトバの意味やシステムをどのように受け止め、解釈し、本当に概念の本質を自分の立てた仮説・推論でつかんでいるかを観ることが大切となる。リチャーズが言うように有能な教授者は、はじめは曖昧さがあるが覚えやすく簡単に真似ることができるやり方で文の意味することをデモンストレーションすることができる。教授者や他の学習者、場との対話、そして自己との対話を通じてなぜこうすると上手くいき、なぜこうすると上手くいかないかと feedback を受け、試行錯誤しながら推論することによりコトバの使える意味の範囲を判断し、規則性や仕組みを発見していく。試行錯誤を繰り返す中で仮説・推論は洗練され、精度が上がっていく。今井むつみが『学力喪失』で言っているように『コトバを獲得することは点を面に広げること。他の状況でも使えること。点から面に広げ、そのコトバの本当の意味を考えることは学習者自身が自分でしなければならない。大人や周りはサポートできるが教えることはできない。学習者は「点」としてしか教えてもらうことはできない。』自分で発見したものであれば他の状況で使っていくための手がかりとなる。私たち英語教師には教えることの専門家から学びの専門家への視点の転換が必然となる。

An Interview With I. A. Richards (March 11, 1969) によると I. A. Richards は人口が爆発的に増え、世界の貧しい地域はますます貧しくなり、富裕層はますます裕福になっている。悪化している事態、いずれは起きる世界的な危機意識からより多くの有能な人材を育成するための大衆教育とそのためのより良い方法の模索に緊急的必要性を感じ、脱出するための計画を最後の著書の一つである *Design for Escape World Education Through Modern Media* (1968) に書いた。その手段として 新たなテクノロジー (modern media) 特にテレビに可能性と希望を見ていた。

Design for Escape の9つの計画 (design) の中の 6 つ目

6) The most capable channels for such teaching are film-strip, tape, records, picture text, TV-modern media, extant or to be - **computer-handled**.

「そうした教育に最も適した媒体は、映画、フィルムストリップ、テープ、レコード、画像テキスト、テレビといった現存する、あるいは将来コンピュータ処理される新しいテクノロジーである」

しかし、リチャーズは新たなテクノロジーを使ったメディアに警戒心を怠らず慎重であった。

Design for Escape の9つの計画 (design) の中の 7 つ目

7) Design of instruction via these media can be developed quickly and wisely enough only if it is controlled by precise feedback from the outcomes – as in any advancing technology.

初めからコトバのシステムとデータを持つ AI と持っていないヒトではコトバへの向き合い方が違う。印刷機は道具だが AI は自律的に動く。ヒトは情報量が多くなると停滞し、考えなくなる。

Stevan Harnad が言うように少なくとも最初のコトバの一群には何とかしてモノやコト、ヒトとの関係に身体を通して入り込んだり、入り直す必要がある。

解決策の最後にリチャーズが言っているように全てを新しいテクノロジーに委ねるわけにはいかない。実践をデザインするときには厳しい目を向けなければならない。(A new, severe, and most exacting puritanism of purpose is needed to keep the distracting temptations of these media at bay. P20) 新しい情報テクノロジーはそれぞれに異なる意味を持ち、可能性とやれることを独自に拡げようとする。飲み込まれてしまっはいけない。目指す教育が効果を上げるには上手く人材と資源を配分 (adequate allocation of brains and resources) する必要がある。

Design for Escape の9つの計画(design)の中の9つ目

9) Increase in the effective capacity of such instruction could match even the current advances of **SPACE VEHICLES** – given adequate allocation of brains and resources.

4. おわりに

人類は、生き残り、子孫を残すため、未来を予測し、よりよい判断をするために私たちの脳にある種のバイアスが掛けられることとなった。学習の基礎には文字や文法、数式の記憶が深く関与していると言われている。

☆1 脳は生存に関わる情報を優先的に記憶にとどめる

☆2 情報は簡略化し曖昧な状態で記憶にとどめておいた方が、環境の変化に対応し

応用が利く!

☆3 自然界では全部見えなくても大体こういうものだと判断できることが重要!

☆4 自然界に全く同じモノはない。etc.

認知科学者や言語学者が協力することによって子どもが言葉を獲得する、つかむ秘密が解き明かされてきている。

◇1 全てのモノには名前がある。知らない単語を聞いたらモノの名前 まず名前のつく対象として名前がないモノに注目!

◇2 はじめて見るモノにはじめて聞く名前がつけられると、それは特定の個体を指す固有名詞ではなく普通名詞と考える etc.

存在感の増す AI と現在の英語教育の流れを考えたとき、言語感覚随一と言われた I. A. Richards が類い希な能力をもって、マクロの視点から最善と考えた国際的なコミュニケーション手段としての Basic English をもとにミクロの視点から試行錯誤を経て、落とし込まれた *English through Pictures* には学習者が自律的に学び、コトバをつかむ点から興味が尽きない。

聖書言語の意味解釈

～ BBE (*The Bible in Basic English*)版を範として (2) ～

後 藤 寛

まえがき

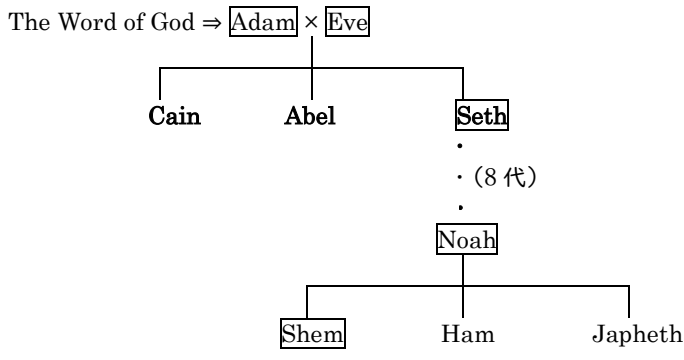
本稿は昨年の本会 *Year Book* での拙稿(2024)と同表題の下,第2部としてさらに敷衍(ふえん)して説くものである。旧約・新約聖書言語の神話体系(mythological system)は意味解釈が難しい箇所はもちろん多々ある。しかしながら,基本的な系図と全体のテーマ上の流れを把握すれば,次第に理解は深まってくる。前稿では旧約に基づくユダヤ教(Judaism)と日本神道(Shintoism)の類似性から,ユダヤ民族と日本民族が民族的に同一のルーツとするいわゆる「日本・ユダヤ同祖論」(Japanese-Jewish common ancestry theory)に焦点をあてた。

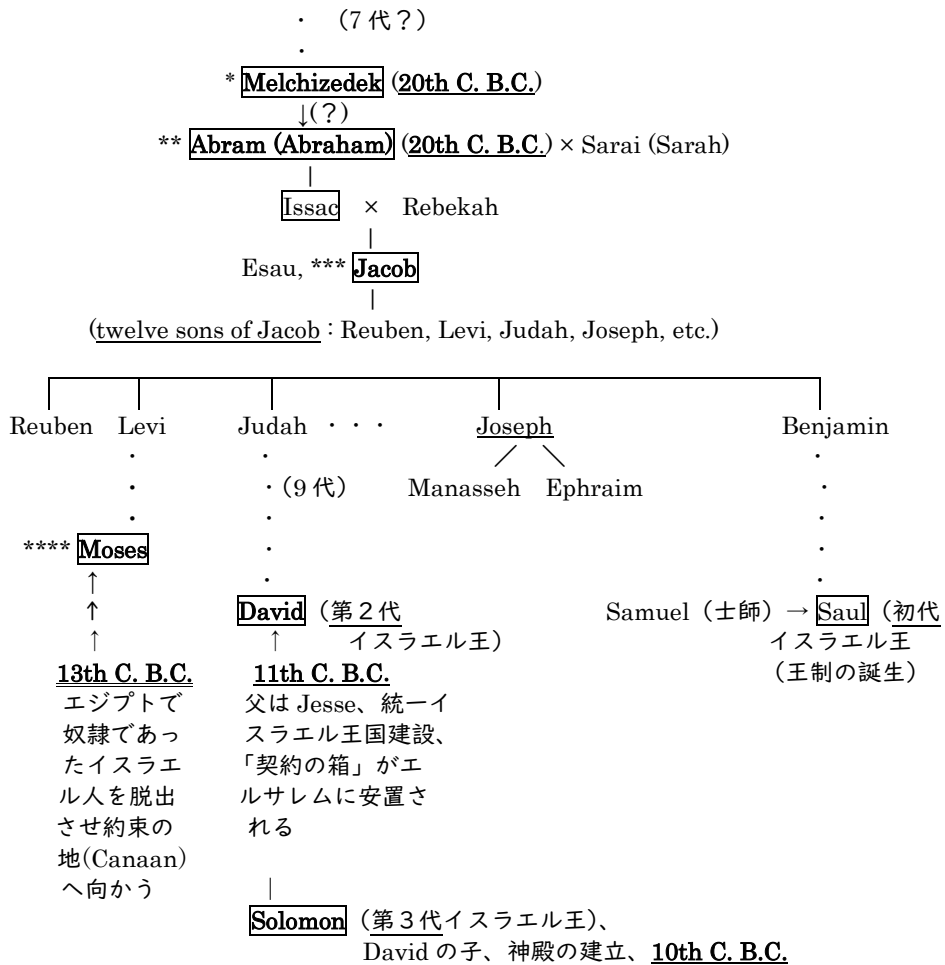
今回この特異な理論を背景にさらに発展的に象徴的(symbolic)な聖書言語の釈義(hermeneutics / biblical language interpretation)を試みるが,表題に示すようにやはり範とする聖書は語彙制限(850 + 150⁺ = 1,000⁺語)の下で翻訳されたBBE (*The Bible in Basic English*)で手元にある貴重なハードカバー初版(1949)である。BBEは目に見える直示的(deictic / referential)表示ばかりでなく,目には見えない不可視の感情的(emotional / empathic)表示への注目上でも必須の文献であり,Basic 体系そのものの真なる追究上でもこれは欠かせない。BBEへの言及はEP本III, p.219でもなされる。

なお,聖書は構成上からは書数66書(旧約39書・新約27書),章数1,189章(旧約929章・新約260章),節数31,171節(旧約23,214節・新約7,957節)である。

1. 旧約から新約へ: ユダヤ教(Judaism)の神とキリスト教(Christianity)の神

聖書テーマは天地創造の神を振り出しにユダヤ教の神からキリスト教の神へという流れで展開するが,それを手早く把握し解釈するためにはまずは系図的に示すのがよい。ここでは筆者なりに以下に分かりやすくポイントを提示してみる。





* **Melchizedek** (メルキゼデク) : [Salem (Jerusalem の旧名) の王で大祭司 (家系は Noah の息子 Shem から?)、後のメシア (キリスト) のモデル・パターン となった]。

** **Abram (Abraham)** : Shem の系図からで、「信仰の父」とされ子孫が約束の地(Canaan / the Promised Land)へ導かれると神から預言される。

*** **Jacob** : Abraham の孫 (双子の兄弟で Jacob の兄は Esau) でイスラエル 12 支族の祖 (後の名は Israel)。12 人の子が 12 支族長となる。長男から末弟の順に Reuben, Simeon, Levi, Judah, Dan, Naphtali, Gad, Asher, Issachar, Zebulun, Joseph (実際には息子の兄弟 Manasseh, Ephraim が族長を務める), Benjamin。

**** **Moses** : 預言者。兄は Aaron (アロン) で祭司。出エジプト前の過ぎ越しの祀り (Passover) の後, シナイ半島のシナイ山 (Mt. Sinai) で神から 十戒 (Ten Commandments / Decalogue) を授かる→契約の箱 (Ark of the Covenant) に十戒を納める。

↓

・ 約 40 年間イスラエル人はモーゼ(Moses)の下で約束の地(Canaan) [現在のパレスチナ (Palestine)] を目指す → 一方で土着の神 (バール : Baal) を信じ偶像崇拜 (idolatry)

にも走る → 約束の地目でのモーゼの死 → ヨシュア(Joshua)が後継者となり約束の地に入る → 王制以前のイスラエル国

↓

- ・ 王制の誕生 (Saul, David, Solomon) → ソロモン王(King Solomon)がエルサレムに神殿・宮殿を建立 (契約の箱が神殿に納められる) → ソロモン王の死 ⇒ イスラエル王国、南北に分裂 [紀元前 10 世紀 (922 B.C.)], 北: サマリヤ(Samaria)が首都 / 南: エルサレム (Jerusalem <旧名: Salem)が首都 → 王の乱立

↓

- ・ 預言者(prophet)たちの登場 (Elijah, Elisha, etc.)

↓

- ・ 紀元前 8 世紀 (722 B.C.) 北イスラエル王国 [10 支族 (Reuben, Simeon, Levi, Dan, Naphtali, Gad, Asher, Issachar, Zebulun, Joseph)] が Assyria に滅ぼされる → アッシリア捕囚(Assyrian Captivity) ⇒ 支族、各地へ離散 (Diaspora) ⇒ 歴史上から消え、どこへ行ったのかは今日なお歴史上の謎 [イスラエルの失われた 10 支族(Ten Lost Tribes of Israel)] → 預言者 (Isaiah, Hosea, Amos, Micah, Jonah, Jeremiah, Nahum, Habakkuk, Zephaniah, Joel, etc.)

↓

- ・ 紀元前 6 世紀 (586 B.C.) 南イスラエル王国 (ユダ王国) [2 支族 (Judah, Benjamin)] が Babylonia に滅ぼされる → バビロン捕囚(Babylonian Captivity) ⇒ 支族、各地へ離散 (Diaspora) → エルサレム神殿破壊

↓ → 十戒など三種の神器を納めた契約の箱, 所在不となる

イスラエルの民は神殿・土地・王を同時に失う, 残ったものは唯一神の御言葉 [the Word of God] であった → 救世主 (メシア) の待望

↓

- ・ 預言者 (Ezekiel, Daniel, Haggai, Zechariah, Obadiah, etc.)

↓

- ・ ペルシャ時代 (紀元前 6 ~ 4 世紀)

↓

ペルシャ皇帝キュロス(Cyrus)が捕囚民を釈放(538 B.C.), ユダヤ人のエルサレム帰還, ヘロデ王(King Herod)による神殿 (第 2 神殿) の再建へ → 預言者 Malachi

↓

ユダヤの地にエルサレム神殿回復(516 B.C.)

↓

- ・ ヘレニズム時代 (紀元前 4 ~ 1 世紀)

↓

- ・ ローマ時代 [紀元前 1 世紀 ~ 紀元後 4 世紀 (30 B.C. ~ A.D. 330)]

ユダヤにヘロデ(Herod)王家 → 20 B.C.頃, 神殿の改修・拡張 (ヘロデ神殿とも称される) → 圧政 → ユダヤはローマ帝国の支配下となる (皇帝: シーザー: Caesar)

↓

- ・ 律法学者、パリサイ人(Pharisee)たちによるユダヤの律法解釈

↓ <ユダヤ民族の選民意識(elitism)>

- ・ Jesus Christ (イエス=キリスト) [メシア: Messiah] の誕生 [ユダ(Judah)族のダビデ(David)の系図から] → イエスに対する迫害

↓

- ・ その生と死と復活 (紀元前 4 年 [4 B.C.] ? - 紀元後 29 年 [A.D. 29] ?)

↓

- ・ 使徒パウロ(Paul)などによるイエスの教えの布教 → 初期キリスト教会の樹立

↓

- ・ ローマ軍の進撃により A.D. 70 にエルサレム陥落(神殿破壊) → [今日, 「嘆きの壁」(Wailing

Wall)としての神殿の遺構] ⇒ 一方でキリスト教(Christianity)が世界宗教へ
→ 戦後(1948年),イスラエル建国

- ・
- ・ 2,000 年後？
- ・
- ・ ハルマゲドン(Armageddon) cf. 新約『黙示録(Revelation)』(16:16) → 世界の終末最終戦争(核兵器による?) ⇒ 新エルサレム(New Jerusalem) (?)
↑
- ・ 最後の審判(Last Judgement) → キリストの再臨(the Second Coming of Jesus Christ)

大枠で歴史的な流れを示したが、これは聖書読みで基本となる。次に旧約聖書で確認しておきたい点がある。ユダヤ教典旧約の最初の5書『創世記』(Genesis), 『出エジプト記』(Exodus), 『レビ記』(Leviticus), 『民数記』(Numbers), 『申命記』(Deuteronomy)は元来はモーゼが書いたものと推測されていて「**モーゼ5書**」と言われもするが、これがいわゆる律法5書(Torah / Pentateuch)である。

この5書各々のテーマをキーワードで示せば the **first**, the **names**, the **voice**, the **waste land**, the **words** であり, Basic 聖書 BBE (*The Bible in Basic English*)で各書第1章第1節冒頭に現れる語である。次でその節(一部省略)でのキーワードを太字体とし確認してみる[なお, BBE で用いられる韻文・聖書用語としてのプラス α Basic 語のイタリック体表記は筆者]。

- ・ (Genesis 1:1) At the **first** God made the *heaven* and the earth.
- ・ (Exodus 1:1) Now these are the **names** of the sons of Israel who came into Egypt; every man and his family came with Jacob.
- ・ (Leviticus 1:1) And the **voice** of the *Lord* came to Moses out of the *Tent* of meeting, ...
- ・ (Numbers 1:1) And the *Lord* said to Moses in the **waste land** of Sinai, ...
- ・ (Deuteronomy 1:1) These are the **words** which Moses said to all Israel on the far side of Jordan, ...

このモーゼ5書各々の記述での太字体キーワードをつなぎ合わせると<<初め (first) に名 (name) を呼ぶ声 (voice) が荒野 (waste land) にあり, それは言葉 (words) であった>>の意味となる。広義の折句(acrostic)で日本の平安時代などの「いろは歌」のようなものとなるが, まさにこれは旧約最初の5書 (Torah: トーラー) の解釈上で重要なポイントとなる。

すなわち, 世の「初め」に神は天地を創造した…。神は Abraham (アブラハム) の孫でエジプトの地で奴隷となっていたイスラエル人の祖 Jacob (ヤコブ) の12人の息子で族長の Ruben, Levi, Judah, etc. の「名」を呼んだ…。神は Levi (レビ) 族の血統か

らの Moses (モーゼ) に「声」をかけイスラエル人をエジプトから脱出させ故郷へ迎わせるとした…。脱出した彼らは「荒野」をさまよったが神は彼らをシナイ半島の Mt. Sinai (シナイ山) へと導いた…。神はさらに彼らをヨルダン川以西の約束の地 [Promised Land / Canaan (カナン)] へ導き、ここでモーゼを通し「言葉」を伝えた…。という意味解釈になる。さらにこれは後の新約での『ヨハネ福音書』(St. John) 1 章 1 節の “From the first he was the Word, and the Word was in relation with God and was God.” とともにピッタリと重なってくる。

旧約原本は Hebrew (ヘブライ語) [一部は Jesus (イエス) の母語でもあるとされる Aramaic (アラム語)] でおよそ 1,400-430 B.C. に書かれ、新約原本は Greek (ギリシャ語) でほぼ A.D. 40-90 に書かれたと言われているが史実と神話の織り成す旧約・新約聖書言語のテーマは次の①～⑤の 5 つに大別されよう。

すなわち、上の系図でも示したが①モーゼ(Moses)までの律法のテーマ、②ソロモン王死後のイスラエル王国の南北分裂(922 B.C.)までの『列王記(上下)』(I, II Kings)等での歴史上のテーマ、③預言者登場のテーマ、④救世主(メシア)待望のテーマ、そして⑤新約での救世主(Jesus Christ)の誕生と生涯・その後の使徒たちによるキリスト教伝道のテーマということになる。

2. 旧約のユダヤ教(Judaism)と日本神道(Shintoism)

冒頭「まえがき」でも触れたが、旧約聖書(Old Testament)を經典とするユダヤ教(Judaism)と日本神道(Shintoism)には顕著な接点があることから、後藤(2024)では日本・ユダヤ同祖論(Japanese-Jewish common ancestry theory)に注目した。

日本文化には日本固有のもの？として誰も疑わないようなものが多くある。後藤(同)で日本の国技である大相撲の儀式が実はユダヤ教の儀式と類似していることに触れたのであるが、この大相撲での儀式の 1 つに上位力士が裸の身体に化粧まわしを巻き付け土俵に上がるが、あの化粧まわしは何を意味するか？ユダヤ教とやはり何らかの接点があるのか？『歴代記(上)』に次のような記述がある [破線, 下線, イタリック体表記 (BBE で頻出する プラス α Basic 語) は筆者 (ただし、波線の *ephod* は原文どおり), 以下同様]。

- 1) And David was clothed with a robe of fair linen,... and David had on a linen *ephod*; So all Israel took up the *ark* of the agreement of the Lord, with loud cries and with horns and brass and corded instruments sounding loudly. (I Chronicles 15 : 27 -28)

すなわちこれは、初代イスラエル王サウル(King Saul)から彼の息子らに受け継がれた契約の箱(Ark of the Covenant) [Basic 聖書(BBE)では *ark of the agreement*] が当時エルサレムの西 15km ほどの町 (Shiloh: 城?) に約 20 年間置かれていて、それを第 2

代王ダビデ(King David)がエルサレムの自分の宮殿（パレス）の外の幕屋に置くことができたという文脈につづく記述である。

ダビデ王は綺麗な麻布の衣をまとい, *ephod* (豪華な刺繍でエプロン風の法衣) を身につけていた。契約の箱を前にしてダビデをはじめイスラエルの民は歓喜のあまり, 大声とともにラッパなど管楽器・弦楽器を奏で大変な騒ぎであったというのであるが, これはまさに神輿(みこし)を前に踊る日本の神道祀りと重なる。同時にここでダビデ王が身に付けていた *ephod* という衣は立派なものであっても, 踊っている彼の姿は事実上の裸であったようである。この *ephod* は上記, 日本の大相撲での上位力士が土俵入りで裸の身体に取り付けるあの豪華な化粧まわしと化したのだろうか？

そもそも「イスラエル(Israel)」とは「神の御前で相撲を取る」の意味のヘブライ語に由来することを後藤(同)で触れたが, 日本の祭りに「はだか祭り」もある。愛知県の国府宮(こうのみや)神社で寒気に男性が裸姿でユダヤの契約の箱をイメージさせる神輿の周りで踊るはだか祭りは全国的にも知られるものの一つである。なぜ裸か？であるが, ここにも旧約聖書言語の記述と日本神道の儀式の共通点を見ることがとなる。

上記, ダビデが裸姿でその周りで踊った契約の箱(ark of the covenant)は 587 B.C.のバビロン捕囚(Captivity / Exile)以降, 所在は不明となり歴史上の謎で今日に至っている。もしや日本に渡った？伊勢神宮にあるのか？出エジプトで①モーゼが用いた杖(剣?), ②十戒を刻んだ石板(鏡?), ③宝石(勾玉?)の「三種の神器」を入れた契約の箱は徳島県の剣山にあるという何かと根拠に基づいた説もある。謎めいているが一方で三種の神器の①は名古屋の熱田神宮, ②は三重県の伊勢神宮, ③は東京の皇居にあることは事実として知られている。ともあれ今日, ユダヤの契約の箱は日本全国での祀りでそれをイメージさせる神輿と化して日本人は目にしているのか？

なお, 兵庫県淡路島にキク科の紫苑(しおん)の木の立ち並ぶ山がありこれとエルサレムのシオンの山との関わりや, 日本の天皇家とユダヤとのつながりなど連想させる。地名としてシオンと京都の祇園(ギオン)はヘブライ語と日本語の響きの類似性からやはり関連があるか？〔同趣旨は後藤(同)でも触れた〕。

上の 1)では *robe, fair, ark, Lord* が聖書・韻文での Basic プラス α 語である。*ark* が聖書用語で他は韻文用語である〔文中での *ephod* のイタリック体表記は原文のままで, この語は BBE で便宜的に用いられる。ここでは特別に波線表記ともしておいた〕。

ユダヤ教と日本神道の関わりを考える上で歴史的にもその原点であるとみてよいのはやはり奴隷の身であったイスラエル民族がモーゼ(Moses)に導かれエジプトから脱出したこと, そして後にそれを祝福する儀式となった「過ぎ越しの祭祀(Passover)」であろう。この祭りはイスラエル人のエジプト脱出(Exodus)成功を祝うもので, 今日ユダヤ教の儀式としてこの祭り(祀り)がイスラエルで執り行われている。

後藤（同）ですでに確認したが改めて言えば、神がモーゼを通して新年 1 月の脱出前にエジプト人だけに災いをもたらされ、イスラエル人の家にはそれが及ばないよう目印としてイスラエル人に羊を夜食とさせ、その肉の血を彼らの家の戸口の柱に赤く塗らせたのであった。

同時に戸口には青木の枝(hyssop)を付けておくようにもさせたが、これはまさに日本の正月の門松・松飾りを想起させる。今日、日本の神社や各種の神道儀式で青木の枝がお祓い（おはらい）として用いられること、また神社の鳥居が朱色に塗られていることから、旧約に記されるこのユダヤ教の過ぎ越しの祀り事と日本神道での神事の類似性がやはり浮き彫りにされる。関連してまずは次の旧約『歴代誌（下）』（II Chronicles）の記述を見てみる

- 2) He put up the *pillars* in front of the *Temple*, one on the right side and one on the left, naming the one on the right Jachin and that on the left Boaz. (II Chronicles 3 : 17)

すなわちこれは前節の系図に記したように、破壊されていたエルサレムのユダヤ教神殿を第 2 代イスラエル王ダビデ(King David)の子で第 3 代イスラエル王ソロモン(King Solomon) が、金箔で飾る豪華絢爛たる神殿・宮殿の建立とその内部構造を記す下りでの 1 節である。彼は神殿の前面に左右 2 本の柱を建て、右の柱をヤキン(Jachin) , 左の柱をボアズ(Boaz)と名付けたと記されている。この記述は『列王記（上）』（I Kings 7 : 21) にもある。

ヤキンはユダヤ教典旧約聖書『歴代誌（上）』（I Chronicles 9 : 10)によると祭司で、イスラエル王国の北朝系(Northern Dynasty)の人物であった。一方、ボアズは後の新約聖書『マタイの福音書（第 1 章）』（St. Matthew 1)および『ルカの福音書（第 3 章）』（St. Luke 3)からも明確になるがダビデ王の曾祖父であり、イスラエル王国の南朝系(Southern Dynasty)の人物である。そこで 1 つ日本神道、さらに日本の天皇家の系図との関わりで仮説めいた見方が出てくる。後藤（同）や上述の出エジプトでイスラエル人が家の戸口に子羊の肉の血を塗ったことと関わるユダヤ教での過ぎ越しの祭祀や日本の神社の朱色の鳥居などが再び想い起こされる。

上の 2)の旧約『歴代誌』で第 3 代イスラエル王ソロモン(King Solomon)の建立した神殿正面の左右 2 本の柱がイスラエル王国の北朝系と南朝系を象徴していることは、日本の歴史上で 14 世紀の南北朝時代に天皇家の北朝(Northern Court)と南朝(Southern Court)で対立のあった史実と重なってくる。やはりこの約 60 年間に渡った日本の南北朝時代の混乱は旧約聖書での古代イスラエル王国の北朝・南朝と関わっていたのだろうか？

付け加えておくが、不思議なことに英語訳聖書によってはソロモン神殿の柱の左右ではなく方角の南側がヤキン(Jachin) , 北側がボアズ(Boaz)と北朝・南朝が逆のように記

すものもあるが、今後の注目点としてみたいと考えている。左右ではなく南北の言及はBBEにも、また17世紀初頭(1611年)刊の*King James Version* (欽定訳聖書)にも見られない。

また上記、日本の神社の鳥居門の左右2本の柱はやはりそれぞれ意味があるようである。さらに鳥居(torii)といえ、2本柱の神社の門をなぜ「鳥居」というのか？旧約『創世記』でノアが大洪水の後に水が引いたかどうかを確かめるため箱舟(ark)から鳥を3度放っていることが記されるが、最初はカラス(raven)、2度目と3度目は平和を象徴する鳥の鳩(dove)を飛ばせた。日本の神社に鳩が飼われている光景は馴染み深い、鳥居の「鳥」はやはりこの大洪水の後の鳩のことか？

なお、新約での水で身体を清める洗礼(baptism)とはこの大洪水で救われた人間のノアと妻、3人の息子、各々その妻の8人が水から救われたことに象徴され、儀式としてのお祓いとなった。「船」という漢字にもハ(8)と口をもつ人間があるか？[なお、BBEではark, baptismは聖書用語としてのプラスα語である。また「カラス」はravenが、「鳩」はdoveが韻文用語としてのプラスα Basic語として選定された。上の2)でのpillarはBBEでは韻文用語としてのプラスα Basic語、Templeは頭文字の大文字書きでBBEでは頻繁に便宜的に用いられる語である]。

さらにまた、神社やその他の場での神道祀りで上記、青木の枝を用いたお祓いなども旧約聖書に基づいたまづは南朝(Southern Dynasty)の左から先に、それから北朝(Northern Dynasty)の右という順で執り行われるのが慣例のようであるが、これはダビデ王家の血統である南朝系をまづは先に敬うことにも由来するのだろうか？日本の天皇家の系図は紀元前7世紀の初代神武天皇以来のもので、現在の126代の今上天皇(徳仁)(きんじょうてんのう・なるひと)までつづいているが、いずれにせよ南北朝時代に日本の天皇家の系図は北朝系となり今日に至っている。

この天皇家の北朝の系図に関連して想い起こすことがある。日本の年号が昭和から平成に変わって間もない平成元年(1989年)2月25日付けの朝日新聞で紹介された記事のことである。筆者の手元にあるが、題して<東海 私の昭和>とされ昭和時代の出来事をいろいろ振り返る紙面記事で、A4サイズ1頁分で書かれている。その中で、“現在の日本の天皇は北朝の家系からであり、本来の天皇ではなく、自分こそが初代南朝の天皇で第96代の後醍醐天皇(1288-1339)の血統を受け継ぐ者で、これは500年以上に渡り先祖代々自分たちの家系に伝承されてきたのであり、正統な南朝の家系をもつ正真正銘の天皇は自分である”と戦後の昭和21年(1946年)に名乗り出た人がいたという内容で書かれている。この人のことは戦後の一時に広く知られたようで、実は今日も知る人ぞ知るのである。

この人とは、名は熊沢寛道(くまざわひろみち)である。名乗り出た当時は58歳であったが写真での風貌は年齢よりかなり老けて見え、いかにもお爺さんという感じの人に

写る。この人は戦後の昭和 20 年代から 30 年代あたりまで、名古屋の中心地の一角〔千種区今池交差点周辺地区の旧町名・千種区都(みやこ)通り 3 丁目 41 番地で、現在は千種区内山 1 丁目 16 番地〕の木造長屋で駄菓子屋を営んでいたらしいが、紋付き羽織姿の写真からはその羽織の紋章は菊のようにも見える。

この“もう一人の天皇・熊沢天皇”の長屋は当時“御所”とも言われたようである(現在は雑貨屋となっている)。旧町名「都通り」の「都」は「宮処(みやこ)」と同音同義の由緒ある名で「皇居」の意味ともされるが、この長屋が御所などとはまったく知らず数メートル先の隣組に住んでいた人が“銭湯でも‘陛下’と一緒にあったが、仙人のような老人で言葉を交わしたことはなかった”と後になって驚いてコメントしたようである。

また、この都通りの近くには御器所(ごきそ)という名の町もある。さらに「御器所」といえば、名古屋の熱田区には天皇家に代々伝わる三種の神器の 1 つである剣が祀られている上述の熱田神宮がある。熱田神宮は三重県の伊勢神宮とともに日本の三大神宮の 1 つとして知られる。もう 1 つは東京の明治神宮である。地名・人名など固有名詞の由来を専門的に追究する onomastics (固有名詞学) は興味深いが、名古屋(尾張地方)も何かと帝・御門(みかど)との関わりを感じさせる地である。

天皇が神(Deity)として尊ばれた日本の戦後の米軍占領当時、昭和天皇を戦犯とする可否も議論されていたなか“熊沢天皇”は上記、熊沢家の子孫である自分こそが南北朝時代以来 500 年以上に渡り先祖から子孫に受け継がれている正統な南朝系の天皇であるとする家系図など証拠資料を整え、マッカーサー司令部(GHQ)にも訴えたとされている。

これは米軍機関紙である星条旗紙(*Pacific Stars and Stripes*)や米雑誌 *Life* にも‘Emperor Hiromichi’として紹介され、外国からの報道陣も長屋の“熊沢御所”を取材にも訪れ、その内容は当時世界的に伝わったようである。“熊沢天皇”は全国を回り講演もし、熊沢家が朝廷(南朝)の血統であることの正統性を首尾一貫して主張した。また、東京地裁にも提訴したが結果は却下されることとなった。

その後、この“熊沢天皇”は東京・池袋東口の飲み屋街の一角で間借り住まいしていて、昭和 32 年(1957 年)にはみずから退位し“法皇尊熟(たかなり)”を自称したようであるが、失意のなか“法皇”は昭和 41 年(1966 年)に 78 歳で生涯を終えたとされている。今日も知る人ぞ知るこの“熊沢天皇”に関しては謎である。家族ももっていた人で遺族の現在はどういうものだろうか。また、「熊沢」という姓はやはり名古屋など尾張地方にルーツをもつものなのだろうか？

いずれにせよ、ユダヤ教典旧約聖書と日本神道、また天皇家との関わりということであるがさらに次を見てみる。上の 2) でソロモン王の建立した神殿と宮殿の豪華さに関し触れたが、次にその一端を記す節を 1 つだけ見ておく。やはり『列王記(上)』からの記述である。

- 3) Then the *king* made a great *ivory* seat, plated with the best gold. There were six steps going up to it, and the top of it was round at the back; there were arms on the two sides of the seat, and two *lions* by the side of the arms; And twelve *lions* were placed on the one side and on the other side on the six steps: there was nothing like it in any *kingdom*. (I Kings 10: 18-20)

これはソロモン王(King Solomon)が座る宮殿の椅子(王座)に関する記述である。象牙でできていて、最高級金箔張り、6つの踏み段を上がっていくようになっていた。最上部は後ろが丸くなり、ひじ掛けの両側にはライオンの像が置かれ、踏み段には12基のライオン像(左右6基ずつ)が設置され、いかなる王国にもないようなものであったと記されている〔この節では *king* は Basic での国際名称語、*ivory* と *lion* が韻文用語、*kingdom* が聖書用語として用いられている〕。

ここで特別に注目したい語が *lion* (ライオン) である。*lion* が英語では特別な感情・情緒を含む語として Basic での韻文用語(verse words)の1つに選定されたが、*the king of beasts* (百獣の王) とされる *lion* は英語ではまさに王の象徴となる〔*beast* も Basic では韻文用語としてのプラスα語〕。そこで次の疑問に駆られる。*lion* は元来が日本には古来から棲息していない動物である。それにもかかわらず、なぜ日本の由緒ある神社の境内左右にこの獅子像(*lions*)が立っているのを見かけるのか？これはどこか違和感を抱かさせる光景である。日本に固有のものではない生き物のこの獅子が神道で特別な象徴物となることから、やはりユダヤ教と日本神道の結びつきを色濃く垣間見ることとなる。

また、日本の神社の正面に置かれている賽銭箱は常識的に見る光景である。しかし旧約聖書に賽銭箱が天地創造の神(Yahweh)を祀るエルサレムのソロモン神殿にあったとはまったく記されていない。また天照大神を祀る天皇家の宮である伊勢神宮にもこれは置かれていない。この点は不可解に思えるが、日・ユ同祖論に関する先駆的な文献の小谷部(1929)がユダヤにも当初はなかったが、後に置かれるようになった旨で説いていることから納得できる。賽銭箱はあった。『歴代誌(下)』で次に確認してみる。

- 4) ... Joash had a desire to put the house of the Lord into good order again; ... So at the king's order they [the priests and Levites] made a chest and put it outside the doorway of the house of the Lord. ... And all the chiefs and all the people came gladly and put their money into the chest, ... (II Chronicles 24: 4, 8, 10)

すなわち、歴史的には前節での系図に記したようにソロモン王の死後、イスラエル王国が南北に分裂し(922 B.C.)、南のユダヤで次々と王が交代するなか120年ほど後にヨ

アシュ王(King Joash)が神殿改築での費用集めが必要になり、いわゆる賽銭箱を神殿に置くことを祭司と神殿の祭儀を司るレビ族の者に命じたのである。そして民衆がこの賽銭箱に寄付金を入れた。日本の神社の賽銭箱はここにルーツがあることになる。ただし上記、伊勢神宮にはこれが置かれなかったのはやはりソロモン王の築いたエルサレム神殿には当初はなかったことに準じたものだと考えられ得るか？

ここでは *Lord, king's, priests, people, gladly* がプラス α Basic 語で *Lord, priest, glad* が韻文用語, *king* が国際名称語, そして *people* が聖書用語である。

他にも多くの点でユダヤ教と日本神道の類似性は見いだせる。たとえば日本で塩をまくのは清めの儀式だとされるが、前述の大相撲での塩まきも悪霊を払いのけ強い生命力を与える神道儀式である。ユダヤにも清めの意味で塩まきの風習はやはりあったようである。ヨルダン川西岸に位置する死海(Dead Sea)は塩の多い Salt Sea (塩湖) として知られるが、塩のため魚介類など生物が棲息できず死んでしまうので、塩をすくい出し払いのける風習から清めの1つの儀式ともなつたとされる。塩は悪霊払いの神聖なものとなったわけである。この塩まきに関しては旧約ユダヤ教典での『エゼキエル書』などの記述が知られる。それを見してみる。

- 5) ... let a young *ox* without a mark be offered, and a male sheep from the *flock* without a mark. And you are to take them before the *Lord*, and the *priests* will put salt on them, offering them up for a burned offering to the *Lord*. (Ezekiel 43 : 23 -24)

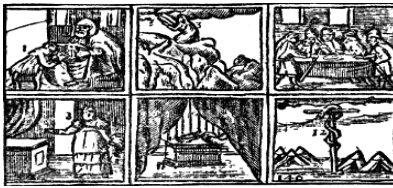
これはバビロン捕囚 (587 B.C.) [既述] で自分自身が捕虜ともなつた預言者 Ezekiel が、エルサレムのユダヤ人に「破壊された神殿が回復したら祭壇に牛と羊を捧げるのだ、そうすれば司祭がそれに塩をまくことになる」と預言している下りである。ユダヤ教儀式での清めの塩まきがこの旧約記述から確認できる。神殿回復といえども本稿で特別に1つ意識下に置いたソロモン神殿にあったユダヤ民族の信仰の象徴としての契約の箱 (ark of the covenant) そのものの所在は依然として今日まで不明のままとなっている。その点ではこれぞまさに世界の7不思議(Seven Wonders of the World)の1つということにもなる。その契約の箱を模したものが日本神道での神輿 (みこし) か？ということになる。

なお、ここでは *ox, flock, priest, Lord* が BBE でのプラス α 語である。Basic では *ox* が聖書用語で、他は韻文用語としての語である。

ところで17世紀のチェコの神学者・教育者 J. A. Comenius は絵本によるラテン語教本 *Orbis Pictus* (1658) 『世界図絵』で150種の世界図絵(木版画)を提示した。この絵本は児童文学(juvenile / children's literature)との関わりからも注目値するが、記述付きの図絵として世界が天地創造の神に始まり神に終わるというテーマで示される。こ

ここでは150種の図絵の146番目「ユダヤ教」と147番目「キリスト教」に関する図絵を次に示しておく。それぞれ6対の図絵である。

(1) ユダヤ教(Judaism)



(2) キリスト教(Christianity)



— Comenius, J. A. (1658) *Orbis Pictus* 『世界図絵』 [146番目と147番目の図絵より]

(1),(2)を上段・下段それぞれ左から右へと順次テーマを簡潔に示す。(1)は旧約での「アブラハムの誕生」,「シナイ山でのモーゼ」,「過ぎ越しの祀りでの祝宴」,「司祭と祭壇」,「契約の箱」,「荒野での安全を象徴する青銅のへび」の図絵である。(2)は新約での「イエスの誕生」,「ヨハネから洗礼を受けるイエス」,「最後の晩餐」,「イエスの十字架上での処刑と墓からの復活」,「イエスの昇天」,「使徒に下った聖霊」の図絵である。なお,本会でバイブルのごときものとされているEP本(*English Through Pictures*) I-IIIは*Orbis Pictus*からの図絵・記述をヒントとしたものであるが,IIIの最終1頁目前(p.232)でラテン語教師と弟子の2人が語る図絵が記される。ここでは省略するが,これは*Orbis Pictus*では序文と結びで2度提示される。

Orbis Pictus 『世界図絵』での図絵と記述文の関係などの今日的な専門研究(comeniology)も今後さらに進展が期待されるが,世界の在り方を図絵で示すのがComeniusの「世界図絵」なら,それをもじって世界の在り方を語で示すのが「世界語彙」(the Words of the World)ということにならないか?Ogden風にはまさにそれはBasic英語語彙(the Words of Basic English)により世界を透かし見るpanopticon(パノプティコン)ということにもなるか?

あとがき

日本神道(Shintoism)の儀式は日本固有のものか?旧約聖書(Old Testament)に見るユダヤ教(Judaism)の儀式と日本神道での諸々の儀式の一致・類似性は偶然のものとはやはり考えにくい。本稿では後藤(2024)で注目した「日・ユ同祖論」(Japanese-Jewish common ancestry theory)をさらに発展的に見ることで論旨を展開した。この種のテーマを考える上では旧約聖書学や国学などの専門研究者の今日的な最新の研究成果が気になるところである。

Basic訳聖書BBE(*The Bible in Basic English*)版を用いての思想的に深みのある聖書言語(biblical language)の意味解釈をするhermeneutics(釈義学)の意義は大きい。神秘主義聖書言語学(mystical-biblical linguistics)という見方・考え方へともなる。Basic語本体の850語のみならず,プラスα語を全頁で縦横に用いるBBEは発展的に“Wider

Basic”の世界に深く参入することになる。Basic を 850 プラス α 語の世界だと漫然ととらえている人にとっては,BBEに接した瞬間に Basicに関しすべてが振り出し(square one)に戻るような思いともなるだろう。個人的に筆者は Basic を高嶺の花とは思っていない。努力はいるが手に入れることのできるものと考えている。なお、冒頭「まえがき」でも言ったが BBE 聖書への注目に関しては EP 本 III でも示唆される。

参考文献

- BBE (*The Bible in Basic English*) (1949) Cambridge Univ. Press.
- Blocker, G. (1974) *The Meaning of Meaninglessness*. Martinus Nijhoff, The Hague.
- Comenius, J. A. (1658) *Orbis Sensualium Pictus* [Translated into English by Hoole, C.] (1728) *J. A. Comenius's Visible World*. John and Benjamin Sprint, London.
- Eidelberg, J. (1980) *The Japanese and the Ten Lost Tribes of Israel*. 中川一夫 (訳)『大和民族はユダヤ人だった』たま出版
- 後藤 寛(2016)『必携 最小限の語彙力で英語を読み,聴く方法:基礎語からの類推』(*Getting the Root Sense of the Basic Words of English*) 松柏社
- 後藤 寛(2024)『聖書言語の意味解釈 ~BBE (*The Bible in Basic English*)版を範として~ (1)』GDM 英語教授法研究会/日本ベーシック・イングリッシュ協会
- 鹿島 昇(1985)『日本神道の謎』光文社
- 小谷部全一郎(1929)『日本及日本国民之起源』(*Japan and the Roots of Japanese*)、(改編版)『古代日本健国の深層 日本人のルーツはユダヤ人だ』(1991) たま出版
- Ogden, C.K. and Richards, I. A. (1923), (10th edition 1952) *The Meaning of Meaning: A Study of the Influence of Language upon Thought and of the Science of Symbolism*. Routledge & Kegan Paul LTD, London.
- Richards, I. A. and Gibson, C. M. (2005) *English Through Pictures* Bks. I-III. Pippin Publishing. Toronto.
- Tokayer, M. (1975) 箱崎総一 (訳)『ユダヤと日本 謎の古代史』産能大学出版部

英語の基本動詞

相沢佳子

Basic の一番の特徴は語彙の制限で、わずか 850 語で一般的なことは何でも言える組織である。さらに動詞を 16 と極端に制約している。Basic 語表の右下の欄に「Basic の語数が便箋一枚に収まるほど少なくて済むのは‘verb’がないから」と記されている。いわゆる一般の動詞 verb を排除して operator (操作詞)として 16 語を出している。と言うことは数多くの動詞の中で少数の特殊な動詞がいかに大きな働きをするか Ogden は分かっていたのでこの組織が出来上がったのだ。

Basic の 16 語のうち say, see, send は put...into words, have/take a look at, make...go などと分解しても表せるが、滑らかにするために入れたとのこと。ここでは更に頻度が少ない keep, let, seem を除いた be, do, have, come, go, give, get, put take, make 10 語を取り上げる。文を形成する中核は動詞である。日本語では「私は猫がきらい」、「彼は背が高い」など動詞がなくても文は成立する。ただし英語では ‘I don’t like cats.’, ‘He is tall.’ と動詞は文構成に不可欠であり、内容的にも文の中核部分となっているきわめて重要な語である。英語では Basic に限らず一般的にも数多くの動詞の中のほんの一握りの動詞がその他一般多数の動詞とは異なった大きな働きをしている。ここでは上にあげたわずか 10 語の動詞、いわゆる基本動詞について改めて考察してみたい。

一般には英語の「基本動詞」と言ってもどれとどれと確定しているわけではない。人により 40 とか 60、それ以上大きい数字をあげている人もいる。『英語のしくみが分かる基本動詞 24』¹⁾などの本も出ている。ここで取り上げる基本動詞は先に述べたように助動詞としても使われる be, do, have の他、come, go, get, give, put, take, make の 10 語である。これらはその他数多くの一般の動詞とははっきり区別して考えられる特性を持っている。それについて次の一章で詳しく述べるが、これらの動詞はごくわずかだけれども一般に考えられる以上はるかに大きな働きをしている。いずれも中学で英語を学び始めに出会う馴染みの動詞で、こんな分かり切った動詞と軽く見られる傾向がある。実際多くの日本人にとってこれらはあまりに幼稚な語という感じで十分に使いこなされてはいない。英語を駆使するにはとてももったいないことである。

これらは意味の原子のようなもので単独で広く使われるだけでなく、前置詞や名詞など他の語と結んで多くの一般動詞の代わりができる、つまり多数の動詞がこれらわずかの動詞に還元される。またさらに比喻、メタファーによっても意味は広がる。これらについては 2 章で述べる。先ずこれらの基本動詞が他の一般の動詞とどう異なっているか、その特性をみていこう。

1 章 基本動詞の特性

1) 使用頻度が高く、長さが短く単純な語 little words である。頻度と言っても日常頻繁によ

く使われ、それだけに誰にでもなじみのある語である。形の上でも短く 4 文字以内、音韻上でもすべて 1 音節だ。よく使われる語が長くては不経済だ。語の頻度と長さは反比例しているという事実はかなり以前から Zipf の法則² として知られている。これら little words に対して綴りの長い big words はどちらかと言えば大げさである。

例えば get に対して acquire, obtain, procure, secure や give に対して award, donate, provide, have に対して possess, make に対して construct, manufacture, produce などがある。日本人はどちらかと言うと big words を使いたがる傾向がある。それの方が何か立派に見えるからだろう。ただ big words にはそれぞれ何らかのニュアンスがあり、適切に使わないと不自然になる。

英語は元来ゲルマン系なのに今では語彙の 6 割がラテン系（主にラテン語、フランス語）由来となっている。little words はゲルマン系、big words はラテン系の語が多い。現代英語の不規則動詞 180 語ほどはすべて 1 音節語 little words でゲルマン系である。2 音節で不規則の語はゲルマン系の接辞語の付いたもの、forget, mistake など。さらに接頭辞で言えばゲルマン系は un-, ラテン系は in(im)-である。unlucky, unkind に対し、impossible, inconvenient などである。現代英語には簡潔なゲルマン系の本来語と精巧で形式張ったラテン語の借入語が混ざっている。Dixon (1973)³ も動詞には少数の nuclear words (核となる基本語) と non-nuclear words (その他の一般の語) があり、この区別は重要でどの言語にもみられると言っている。

2) これらの動詞は be, do, have 以外はすべて日常の人の身体動作、最も身近な基礎的動作を表す。それだけに誰にとっても馴染みの語であり、日常生活や周りの世界の描写、また概念化に欠かせない。私たちの言語体系は生活上の実体験に基づいているので、これらの語は後に論じるような比喩的意味に広がる土台としても貴重である。これらの動詞はお互いに意味的に関連している。動作を表す基本動詞には力とその方向が関わっている。be は静止した状態、do はすべての動作を含むので力や方向には関係しない。

外に向けて give put make go

内に向けて get take have come

これらの動詞は所有の移行に関し、外に向けては give が、内に向けては get が一番強い。make は新たに何かを生じさせるので外に向かったの動作とする。have は所有だがその力は take などより弱い。

3) 意味の軽さ これら動詞の中核的意味は身体動作を表すが、意味の幅も使用範囲もきわめて広く、特定性は薄い。例えば give の「与える」とか have の「持つ」など語特有の意味は時に薄れ、しばしば主語と名詞を結びつける働きに近くなる。時に時制など表すとか文法的働きに近

い。意味はむしろ文中の他の語,名詞,形容詞,前置詞句など担うことが多い。次の例文のようにカッコに入れた動詞部分を削ってみても全体の意味はほぼ伝わる。

The bus suddenly (came to) a stop. バスは突然止まった。

One of the tires (went) flat. タイヤが一つパンクした。

His left arm (got) broken. 彼の左腕が折れた。

The boys (gave) a shout of joy. 少年達は歓喜の声をあげた。

I (had) a strange dream. 私は奇妙な夢を見た。

(Get) out! 外へ出ろ。

He (went into) retirement. 彼は退職した。

このような意味の軽い動詞は一般に light verb とか delexicalized (語彙的意味の薄れた動詞)と言われている。これら動詞の意味は語同士の関係を表し,助動詞のような働きとも言われている。

4)語は一般に内容語と機能語に分けられる。動詞も名詞,形容詞と共に一般には内容語に属している。まとまった内容を表すから内容語に属している。前置詞や接続詞などは文構成が主な働きで機能語である。ただこれらの基本動詞は数が限られ,頻度が非常に高く,上例で見たように文法的働きが大きいことから,どちらかと言うと前置詞などの機能語に近い。Basic で動詞を operator (操作詞)の中に入れたのもこの故である。動詞はすべて一括して扱われているが,ごくわずかな基本動詞が特殊な一群であることは余り気づかれていない。

5)これら動詞は意味の幅が広いと言ったが,それだけに多くの多義語の代用をする。中核的な意味は単純な身体動作だが,実際にはかなり幅広く用いられる。次に手元にある Longman の英和辞典でみてみよう。いくつかの基本動詞とその同義語の後の数字は辞書に出ている意味の数である。

get 57, acquire 3, obtain 2, procure 3, secure 3

give 54, award 3, confer 2, provide 2

have 41, possess 4, receive 1

make 17, construct 3, manufacture 3, produce 7

put 16,

take 41, grip 1, pick 6, remove 1, seize 5

go 31

come 10, stroll(ぶらぶら歩く) 1, trudge(とぼとぼ歩く) 1

実際に少し例をみてみよう。

We have a good idea/strange experience.

They are having a lovely home.

I get an answer/help/opportunity from him.

He gives me an answer/help...

The time has come for some change.

I went through the book in three hours.

He made a great mistake/ a good suggestion.

They put him in control/danger/out of work.

It takes only ten minutes to go through the alphabet.

これらは比喻表現ともいえる。

6) これらの動詞は be, have を除きすべて要素的, 意味の原子のようなものである。先に述べたようにこれらは単純な基本的動作だけを表すが, その他の一般の動詞は動作の方向や動作の対象, 修飾の要素などが組み込まれて複合的内容を表す。例えば blossom, steal にはそれぞれ come into flower, take property of another など。逆に言えばこれら基本動詞は単独で頻繁に使われるだけでなく, 前置詞や副詞, 名詞などと組み合わせさせてまとまった意味を表すことが多い。その結果多くの一般動詞がこれら基本動詞に置き換えられる。英語ではほんのわずかな基本動詞で無数に近い語の代用がほぼできるようになっている。これについては次章で詳しく述べる。

言語には path-language と non-path language (manner language) があると言われている。⁴前者は一語の中に「入る」, 「上がる」など方向まで含む日本語(フランス語)など, 後者は into, up など方向を示す語が動詞の外に出ている英語(ドイツ語も)など。様態に関しては英語では ramble, wander と一語だが, 日本語では「ぶらぶら歩く」と様態は動詞の外に出して別個に言う。英語で enter, ascend など方向が入っている語はほとんどラテン系の借入語である。

2章 基本動詞の広い用法

1 基本動詞+α

上に述べたように英語の一般の動詞は「基本動詞+α」に分解される, つまり還元されるのである。この α については 下記のようなものがある。

a) 前置詞, 副詞 (位置, 方向を限定する) 動詞は get, give, go, put, take など

これらは句動詞としてよく使われている。

get back = return, get off = alight, give out = emit, give up = surrender

go by = pass, (the bombs) go off = explode,
put out (the fire) = extinguish, put up (the problem) =raise,
take away =remove

- b) 名詞(主に動詞的意味を示すもの)動詞は主に give, have, make, take
名詞は主に動詞由来の語。

give 何かを内より放出する

give a cry/a laugh/a push/a shout
give the door a push,
give her a kiss,
give him a blow/ an answer/help/information/trouble

have 自分の領域で何かを所有する

have a bath/a drink/a laugh/a good sleep/a long walk
have belief/a discussion/no doubt/no fear

make 自分の働きて新たに何か生じさせる

make an attack against.../a discovery /a decision /a mistake /an opposition

take 自分の所有域に何か取り込む

take a deep breath /care /a look (at...)

この名詞との結びつきは以上の例からも分かるように意味は主に名詞が担い4つの動詞の意味はきわめて薄い。またこの用法は英語ではかなり頻繁に用いられているが、フランス、イタリア、スペイン語などラテン系の言語ではそれほど用いられていない。動詞が制限されている Basic ではこれは非常に重要な用法となっている。

- c) 形容詞 動詞は主に be, come, get, go, make, put

be angry /come true /get ready /go mad
make clear /full /public put right=correct

- d) 副詞(句) a)の方向などとは異なりここでは様態を表す。

動詞はどれでもよく、その広い意味を限定する。

come /get together (=assemble), go more quickly (=accelerate),
take roughly (=grab)

- e) 副詞前置詞句

- 1) 前置詞と名詞の結びついた句 動詞は主に be, come, go, put

be at rest / come into view =appear / come to a decision =decide
go to one's death =die /put...to death =kill
put...out of mind =forget /put in danger =endanger

2) 副詞句と結びついた句 動詞は主に be, come, get, go, put

come to an agreement / a decision / decide / a stop

get in contact / to sleep (寝付く)

go into retirement (退職する) / out of view = disappear

put out of mind = forget / put the poem in print

2 比喩的拡がり

1章6でも例に出したように元来は人の身体動作を示すこれら基本動詞は比喩的にも広く使われている。ここでは come-go, get, put についてみよう。

come と go 実際の空間内移動から状態などの時間的推移を表す。

All the money has gone. My pain has gone. The price went up.

Everything has gone wrong. Don't go into detail. All went well.

An idea came to my mind. Spring has come.

At last the war came to a stop.

They came to an agreement. The secret came out. (秘密が漏れる)

get 物を手に入れることからある事態,状態を得ることになる。

get control / disease / help / reward / secret / support

方向を表す前置詞と共にある事態,状態を得ることに

get facts into one's head (頭に叩き込む)

get over the disease/trouble (乗り越える,の意味から克服する)

His words got through to her (届く)

put 物を移動させることから状態を引き起こす 多くは方向を表す前置詞と共に

put the feeling into words (ことばに表す) put a limit to... (制約する)

put him out of my mind (忘れる) put a stop / an end to the war (戦争を終わらせる)

put a high value on... (高く評価する) put up an argument (論議を提示する)

put thoughts together (考えをまとめる)

注1 Zipf (1949) 語の使用頻度と語の長さが反比例するという法則を発表した。

言語がどのように情報伝達の最適化に寄与しているか,これはコミュニケーションの負担を最小限におさえるための自然の原理。

注2 小西友七 『英語のしくみが分かる基本動詞24』1996 研究社

注3 Dixon (1973) 少数の nuclear verb は数多くの non-nuclear verb の統括的, 意味的特質をすべて備えているとしている。例えば give に対し, award, donate, present は義務なしで与えるのだが, pay, sell は何らかの見返りとして与えるというそれぞれ含んでいる。ここで彼の使っている nuclear verb とは本文最初に出した little word

とほぼ同じ,核となるような重要な語のこと。

注4 Talmy L (1985) この言語の類型は認知言語において興味を引いた。

方向性を含む動詞は主にロマンス語からの借入語としている。

「渡辺節さん・東山永さんへのインタビュー 1990 年」

—片桐ヨウコさんの資料から—

松川和子

2023 年10月に片桐ユズルさんが、2024 年7月に片桐ヨウコさんが亡くなられ、長く GDM を牽引して下さったお二人には心から感謝を捧げたいと思います。

今年2月以降、西の会員数人でユズルさん・ヨウコさんの蔵書や資料の整理をお手伝いしています。そんな中、GDM による英語指導がどのように始まったか、セミナーの歴史、ADDITIONAL VOCABULARY¹、TEACHERS' HANDBOOK 執筆のいきさつ、東山さんの Teaching plan の立て方等、興味深い内容のインタビュー記事がヨウコさんの資料から見つかりました。これは箕田兵衛さんからヨウコさんへ送られたもので、この記事に同封されていた箕田さんのメモには「おそくなりましたが、東山さん、渡辺さんのインタビューのまとめたものを送ります」とあるので、箕田さんが「まとめ」をされ、ニュースに掲載予定だったのでは?と思われます。GDM の初期の人的交流・活動の様子が伺い知れる大変貴重な資料であると考え Year Book に公開いたします。敬称略。句読点は原文のまま。必要と思われる箇所に注をつけました。問は箕田さん、山田初裕さんの質問です。(1)は渡辺節さんへのインタビュー、(2)は東山永さんへのインタビューです。東山さんへのインタビューには渡辺節さんも一緒だったようです。

A. インタビュー記事

- (1) 渡辺節さんにインタビューしました。渡辺さんは大学るとき、吉沢美穂さん、などと一緒にカナダの教会から派遣されたミス・チャペル²から英文学史の授業を受けました。

問 : 戦後、ミス・チャペルと、どのようなことでお会いになったのですか。

渡辺 : たしか戦後まもなくでしたから、1948年ごろだったと思います。私達の子供に英語を教えておきたいと、思っていた時に再びカナダから日本に帰ってきてくださったミス・チャペルが「ミセス・渡辺、それを私にやらせてください。私は戦争中その方面の研究をしていたのです。あなたの子供と友人の子供達のクラスを作りなさい。私が教えに行つてあげます。」とおっしゃってくれたんです。その時のテキストブックは今の ENGLISH THROUGH PICTURES ではなく、LEARNING THE ENGLISH LANGUAGE だったんです。いきなり This is I. That is you. から始まり、This is my nose. That is your nose. 今の ETP³のグレイディングとはかなり違うんです。吉沢美穂さんがハーバードから帰ってきて、使われていたのは THE POCKET BOOK OF BASIC ENGLISH ですね。それは今の ETP と殆ど変わりはありませんが。そうですね。POCKET BOOK には 1000 ドルを帽子の下から見つけた後に、ワインを飲む話が出て

くるのですが,ETP には出てきません。きっとただで手に入れた,お金を使うのは気が引けたのかも。(笑い)

問 :ところで,クラスの生徒達は年はいくつぐらいだったんですか。

渡辺 :クラスは就学前の子供のグループ,小学生と中学生が 3 人,4 人で始めました。全部で 9 人位だったと思います。場所は阿佐ヶ谷の私が住んでいた6畳間で,隣の4畳半が母親達の待合室でした。チャペル先生はフラッシュ・カードを良く使われていましたね。昨年ミス・チャペルが亡くなられたとき,此のときのクラスの人たちに連絡をとったのですが,作家の田宮虎彦さんの二人のお子さんもクラスにいたんですね。すぐ近所だったんです。下の子は幼稚園児でした。授業のときよく寝てしまうんです。最初は1クラスでしたが,そのうち早組とおそ組とに分けました。授業だけでなく,皆で栗拾いに行ったこともあります。

問 :吉沢美穂さんがハーバードに,留学することになったいきさつなど,聞かせてください。

渡辺 :リチャード先生⁴が日本に来られたとき,阿江,渡辺,吉沢さんの中から,一人ハーバードに来ないかと言ってくださったんです。阿江さんも私も当時,子育ての最中だったので,お子さんのない吉沢さんに決まったのです。当時,和服を着ていた吉沢さんが試験に和服を着ていくわけにもいかないし,ということで私がスーツを貸してあげたのを覚えています。

問 :その後石神井にも新しいクラスができましたね。

渡辺 :私の息子がかよっていた小学校の友達のお父さんが,お坊さんで,ぜひお寺の部屋を使って英語を教えていただきたいという話があり,チャペル先生にお願いしたのですが,大学が忙しいので無理だとおっしゃられ,阿江さん,吉沢さん,にやってもらうことになりました。人数がどんどん増えて,私まで教えることになったのです。大人のクラスも作りました。その中にお年を召した方がいらっしゃったのを覚えています。その方が東京都知事,東さんの奥さんだったのです。子供達の授業のことで面白かったのはクリスマスのときにミス・チャペルが “MERRY CHRISTMAS TO YOU” といわれたら,子供達が声を揃えて “MERRY CHRISTMAS TO ME” と言ったことです。とにかくそういうことが徹底してたようです。幼稚園組では一人の男の子が “woman” をゴマン、ゴマンていうんですね。どうしてかと思ったら,日本人の W の発音が弱いので,先生は誇張して, “This is a goman.” と言っていらしたのです。最初の授業が終わったときの生徒の作文に「答えがあったときは,クール,クールと言います。」と書いてありました。「GOOD」のことですね。NAIL が「ネイヨー」になったりしていました。LEL にはテープがないので,最初はネイティブでなければ,教えられなかったです。

問 :石神井以外でも教えたことはあるのですか。

渡辺 :昭和 28 年頃に,武蔵野日赤の高等看護学校で教えてくれというので,行きましたが生徒の学力がまちまちで,困ってしまい,今までの英語を忘れてしまうように言って,GDM でやりました。その頃 伊木さんと長谷部さんが東洋英和で教えていました。伊木さんは吉

沢さんと同期で長谷部さんは 1 年下でした。ルーテルでも教えたことがあります。私は絵が下手で描けなかった事を覚えています。黒板に練習にかいた絵を、主人に笑われたことを思い出します。

問 : ETP は何ページぐらいまで教えられましたか。

渡辺 : 小学生にはニュートンのあたりまで教えました。私の息子も石神井に行っていたんですが、高校時代に先生から「渡辺はいつも難しい英作文なんかもやさしくさっさと書きちゃう。」といわれました。

問 : 吉沢さんがよく「それ目」と言われていましたが、どう言うことでそういう言葉ができたのですか。

渡辺 : 吉沢さん、仲のよかった清水さん、それに私が猪苗代湖の方に疎開していたんです。その湖畔にわらび採りにいったのですが、なかなか見つからなかったのも、わらびしか目に付かなくなってしまい、わらび目になってしまったと言っていたんです。そのわらび目から来ているんです。

問 : BASIC ENGLISH の話はよく聞かれましたか。

渡辺 : ええ、聞きました。チャペル先生も 850 語をきちんと守っておられたようですね。

問 : 吉沢さんの授業は見たことがあるんですか。

渡辺 : ACC の授業を見に行ったことがあるんです。出来ない子供の心理をちょっと研究したかったんで。吉沢さんから「やな人ね本当に、何でくるのよ。」といわれました。「小さくなっているから、ささないでよ」と言って見学したんです。面白かったですね。

問 : 今後の GDM について。

渡辺 : 千葉大に授業を見学に行きましたが、よくやっていましたね。今後も学校でどんどんやれるようになればいいですね。アメリカのように外からどんどん英語が入ってくるとこで、集中的に早くやってしまうなら良いと思いますが、語が少ないので、単語を無理に憶えなくてもよいんですが、色々とニュアンスのある単語が使えなくなると言われると困ります。コンテンツ・ワードを増やしてもよいのですが、動詞はね、増やせませんね。もう (GDM を) 他の国はやってはいませんし、日本が一番よく根づいているのではないですか？

箕田・山田 : 長い時間どうもありがとうございました。

(2) 6 月 3 日、公開講演会の翌日、大磯の東山永さんのお宅に伺って第 I 回のセミナーの様子をまじえて、色々とお聞きしました。

問 : GDM との出会いをまず聞かせてください。

東山 : 毎日新聞だったと思いますが、外国語としての英語教授法という小さな記事が出ていたんです。吉沢先生の名前と場所と時位しか書いてなかったですね。実はその頃この

家の近くの教会で、英語を教えていたんです。戦後ですので、あまりよい教科書もなく、昔自分が習ったことを思い出しながら、教えていたんです。BE 動詞はよかったんですが、普通の動詞に入って SEE と HAVE はまあまあなんとかやりました。その後がうまくかないんです。丁度そのときに GDM のセミナーの記事を見たんです。なんとかなるかなあ、と思いながら行くことにしました。参加者は 20 数名、場所はお茶ノ水の YWCA でした。参加者の中には、五十嵐新次郎さん、すでにその前から吉沢先生と一緒にやっていた渡辺さん、阿江さん、伊木さん、長谷部さん、伊藤さんもしました。1952 年でしたから、今の 38 年前です。講師は吉沢先生 1 人で、受付から何から何まで全部 1 人でやられていました。教室の前のテーブルで、来た人たちの名前を確認し、受取りを書いていたんです。さあ、始めましょうと言って普通の人の 3 倍の速さで話はじめたんです。3 つのテンスを教えると聞かされて、びっくりしました。I, YOU から始めて、最初はやりながら本を見て説明を聞きました。ETP は WILL しか出てこないでしょ、その当時は SHALL も普通でしたから、SHALL のない英語なんてあるのか知らん、なんて言っている人もいました。

問 : 何日間ぐらいやったのですか。

東山 : 毎週何曜日というように週 1 回で 11 月の初めから 3 月ぐらいまで、夜やりました。そのうちどなたかやってくださいと言われ五十嵐さんがやったのを覚えています。AGAIN でした。彼はお芝居がうまく “I went to the door.” を何回かやって I will go to the door again. を導入しました。その頃は GDM は英語教師の間では殆ど知られてなかったので、参加者の中にはこんなきつい教授法は体力的にできませんとか。語を制限するのはよくないとか、筆記体を教えないのはよくないとか、色々言う人がいました。

問 : BASIC ENGLISH との関係はどうなっていたのですか。

東山 : 話は聞きましたが、あまり詳しく聞きませんでした。私も 10 年ぐらい経ってようやくわかってきました。

問 : その後のセミナーは？

東山 : YWCA の後は文化学院、ルーテル・センター、日大二校、それから片桐さんが京都に行き、六甲でも始めたんです。その間、神戸でも小さなセミナーを 1, 2 回していると思います。六甲での評判が良かったので、東京方面でもということで御殿場セミナーが決まったのです。

問 : ADDITIONAL VOCABULARY, TEACHERS' HANDBOOK などの誕生について。

東山 : 六甲に行った時に公立中学校の先生も多く参加しており、ETP だけでは検定教科書の語がカバーできないので、少しずつ加えていこうということになり、皆で手分けをし両

方に出てくる 3000 語くらいのリストを作り,ETP のどのあたりにどの語を入れるかを考えながら作ったものです。TEACHERS' HANDBOOK は昭和 30 年に初版で吉沢先生が一人で書かれたんです。その後再版のときに升川さんと私が加わって3人で,やりました。授業の記録をお互いに交換して大切なところをチェックし,それをまとめて,入れるか入れないかを検討しました。吉沢先生は仕事が早かったので,忙しかったですね。改訂は 2 度しました。あまり細かくすると,皆,自分で考えなくなるので,簡単にしてページはなるべく,少なくしようということになりました。1971 年には OPERATION の語の変化を鎌倉グループ 20 人ぐらいで調べました⁵。各グループで調べたものを一枚の紙にまとめるのが大変でした。

問 : デモの TEACHING PLAN はどのように作りますか。

東山 : 先日,IF のデモをしましたが,先ず IF の出ている 10 ページ前あたりから,何回も何回も読み返します。その後 IF がどのように展開するかを見ておくんです。身近の SITUATION からしたいんですけど WHEN と区別がつかなくなりますね。なるべく数字で導入し,3角形をだしたりします。新しいものもだしますが,根本は変えてはいけません。

問 : 今までのデモのなかで印象に残っているものを話していただきたいのですが。

東山 : 日大二校で TAKE のデモをしたとき,私の言った文を絵に描いてもらったんです。私の頭の中はテーブルにある魚を猫が来て,持っていってしまう絵ができていたのですが,生徒の絵は皆,金魚鉢から取っていく絵なんですね。生活の違いを感じました。WAS を教えたとき,I was on the seat. I was in the seat.の違いがはっきりしないまま,使っていたのですが,何かおかしいと思いながらずいぶん悩みました。ETP をよく読んでみると Book 1 の p.78 には Mary is in her seat at the table. Book 2 の p.13 には Those men and women on the seats in the waiting room are waiting. という文が出てきます。IN と ON がこんなに違うんだという事がやっとわかりました。

問 : 絵の話をよくされますが。

東山 : 私は絵が好きなんです。子供の頃は美術学校に行きたかったんですが,父が早くなってしまうし,学費が一番安いところということで津田に行ったのですが,その頃の入学金は5円でした。

問 : 戦前の英語に対する考え方は今とはずいぶんちがっていたんでしょうね。

東山 : 津田塾に入った頃は巣鴨に住んでいました。国分寺まで通うのに,電車の中で英語の本を開いていると,唾を引っ掛けられたんです。ドイツ語やイタリア語ならいいんですけど。丁度,12 月 8 日の朝でした。バイオリニストの巖本真理さんのお母さんが英語を教えていらして,何時も車で一緒になるんです。新宿駅で中央線に乗り換えるときでした。階段のところで,下から上がってきた男の人が「この野郎」といって,先生を突き飛

ばしたんです。後でわかったんですが、その日に戦争が始まったんです。顔を見ればすぐに白人であることが分かったからです。そういう時代でした。

問 : これからの GDM について。

東山 : GDM で一番大切な GRADING と DIRECT をきちっと守っていかなければいけませんね。そのうえで他の色々な勉強をしていく事が大切です。

箕田・山田: どうも有難うございました。

ききて 箕田, 山田 (渡辺さん)

文責 箕田

B. この記事についての感想

今回この資料を読み、特に興味を引かれた箇所の一つは「それ目」の由来です。初めて御殿場セミナーに参加した折に吉沢美穂さんが「(GDM で教えていると何か役に立つ物はないかと) なんでもそれ目でみている」と言われ、なるほどと感心したことがありますが、それが渡辺さんの言われる「わらび目」から来ていると分かり愉快的気持ちになりました。もう一つの箇所は東山さんの「IF の 10 ページ前あたりから、何回も何回も読み返します」の箇所で teaching plan を考えるためには、まず feed-forward にしっかりと注目すること―「それまでに何が教えてあるのか」「なぜそれが教えてあるのか」を一度ではなく「何度も見直す」東山さんの姿勢にあらためて目を見開かされる思いがしました。

注

(1) 吉沢美穂・東山永著 GDM PUBLICATIONS

「GDM の原理をくずさずに EP の中で単語を補いたい時にどの部分でどの語を補ったら良いかを具体的に提案する。」(Book List の説明文より)

(2) 東京女子大学教授 Constance Chappell

(3) *ENGLISH THROUGH PICTURES*

(4) I.A. Richards

(5) 『ENGLISH THROUGH PICTURES, Book I における BASIC ENGLISH OPERATIONS ―その文型および意味の展開―』 G.D.M. 鎌倉グループ
1971 GDM PUBLICATIONS

◆◆◆ 東日本支部活動報告 ◆◆◆

<2023 年 9 月~2024 年 8 月>

2023年

9月9日 月例会 田道住区センター三田分室
デモ: Book1 p.111 rel. who 多羅深雪
トーク: 聖書と英語 伊達民和

10月8日月例会 田道住区センター
デモ: Book1 p.46 before (conj.) 竹野裕子
Basic English (Qualities 100 より)

11月5日月例会/秋のセミナー オリンピック記念青少年センター
1. GDM 理論を活用した授業例 松浦克己
2. 授業体験
①前置詞 of をどのように教えるか 加藤准子
②一般動詞 see の現在形-3単元の効果的な教え方 唐木田照代
3. 中学校で関係代名詞をどのように教えるか (VTR)

12月9日月例会 田道住区センター
デモ: Book1 p.41 see 高成仁奈子
Basic English (Qualities 100 より)

2024年

1月13日月例会 田道住区センター
Book1 p.97 for instrument measure 黒瀬るみ
Basic English (Qualities 100 より)

2月17日 月例会/Basic English Workshop オリンピック記念青少年総合センター
1. A Second Workbook of English (pp.44-46) 唐木田照代
2. "to" in EP1 and Basic by Examples 黒沢文子
3. Basic through Pictures の試み 新井等

3月23日月例会 田道住区センター
デモ: Book 1 p.71 will get, getting, got 竹野裕子
Basic English (Qualities 100 より)

4月13日月例会	田道住区センター	
	デモ: EP1 p.98 keep	板橋和子
	Basic English (Qualities 100 より)	
5月11日	教師養成コース(1回目) すみだ産業会館	
	1. 英語以外の外国語体験	伴野温子
	2. レクチャー: DVD「はじめての英語」をみながら理論	黒瀬るみ
	3. 授業体験 I: in, on	高成仁奈子
5月19日	教師養成コース(2回目) すみだ産業会館	
	1. 授業体験2: before (conj.)	唐木田照代
	2. レクチャー: 授業体験の流れを解説	服部正子
	3. クラスの動画視聴と解説: 中3の関節疑問文の授業を見る	黒瀬るみ
6月8日	教師養成コース(3回目) すみだ産業会館	
	1. 授業体験3: go の三時制	板橋和子
	2. レクチャー: 授業の組み立て方について	伴野温子
	3. 授業準備: 模擬授業に向けて基本アイテムを解説 グループワークで相談と練習	
6月29日	教師養成コース(4回目) すみだ産業会館	
	1. 模擬授業: 参加者の発表	
	2. 全体の振り返り	
7月6日-7日	発音ワークショップ リンガ・ランゲージ・スタジオ	前勝和代
7月27日	総会 勤労福祉会館	
8月21日~ 22日	サマーセミナー2024 in Nagoya 邦和セミナープラザ	

◆◆◆ 西日本支部活動報告 ◆◆◆

(2023 年 9 月～2024 年 8 月)

2023 年

9月10日:月例会・総会 大阪市立生涯学習センター
アデモ put (Book 1 p.15) 麻田暁枝
話題提供「to 不定詞の形容詞的用法について」 松浦克己

10月22日:月例会 大阪市立生涯学習センター
デモ make(SVOC) (Book 1 p.91) 河村有里子
デモ 仮定法過去 松川和子

11月26日:対面/オンラインセミナー 大阪市立生涯学習センター
デモ where(rel.) 松川和子
デモ keep (Book1 p.96) 河村有里子
トーク「GDM を公立中学校の英語の授業に取り入れるとどんな効果が期待できるか？」 松浦克己

12月9日:月例会 大阪市立生涯学習センター
デモ 受動態(Book 2 p.154) 麻田暁枝
『Graded Direct Method で英語の授業が変わる』
pp.145-158【不定詞(2)・受け身】を読んで 感想・質問を語り合う会

2024 年

1月21日:月例会 大阪市立生涯学習センター
デモ let(Book 1 p.98) 上島光代
『Graded Direct Method で英語の授業が変わる』
pp.158-164【現在完了】を読んで 感想・質問を語り合う会

2月18日:月例会 大阪市立生涯学習センター
デモ how to 松川和子
話題提供「検定教科書を使って,どのように和訳なしに授業を進めるか」 松浦克己

3月9日・10日:GDM 初級・中級セミナーin kyoto2024 京都テルサ

4月13日:月例会 大阪市立生涯学習センター
デモ come(Book 1 p.60) 松川和子
『Graded Direct Method で英語の授業が変わる』
pp. 164-173【関係代名詞】を読んで感想・質問を語り合う会

5月12日:月例会 大阪市立生涯学習センター
デモ①比較級(Book 2 p.35.42.57) 麻田暁枝
デモ②let(Book 1 p.15) 上島光代

6月16日:月例会 大阪市立生涯学習センター
脱・丸暗記の GDM 英語授業作り公開勉強会シリーズ
難解文法の規則を生徒に気づかせる授業
中学3年生 原形不定詞・間接疑問文 公開勉強会
プログラム:
・体験デモ 原形不定詞の導入 上島光代
・授業ビデオ視聴 間接疑問文の導入

7月14日:月例会/総会 大阪市立生涯学習センター
※専修大 院生の方からのオンライン視聴の申込みに応えて
デモ Book 1 p.8 This That の導入と練習 麻田暁枝
デモ Book 1 p.11 my, your, his, her の導入と練習 松川和子

8月21日～ 22日 サマーセミナー2024 in Nagoya 邦和セミナープラザ